

加温栽培無核ピオーネの果実品質と新梢および結果母枝の形質との関係

広瀬正純 · 中尾茂夫 · 藤田義明 · 渡辺久能 (大分県農業技術センター)

Masazumi HIROSE, Shigeo NAKAO, Yoshiaki FUJITA and Hisayoshi WATANABE : Relation between Fruit Quality and Character of Shoot, Fruiting Cane of Seedless 'Pione' Grape in Heating Green House

ジベレリン処理栽培のピオーネは、無核、大粒で食味が良いことから、消費者嗜好にマッチし、近年需要が伸びている。一般に、物理的脱粒しない適度な着粒密度、大粒、良着色、高糖度な果房が高品質果とされている。本栽培では、新梢を強めに管理することが、高品質果につながると考えられているが、新梢および新梢の発生部位である結果母枝の形質との関係については不明な点が多い。そこで、加温栽培無核ピオーネの果実品質と果房着生新梢および結果母枝の形質との関係について調査したので、その概要を報告する。

1. 材料および方法

1月13日にビニル被覆、1月22日に加温を開始した、現地の5年生、長梢剪定ピオーネ2樹を供試した。各樹4本主枝の2主枝について、収穫盛期の6月27～29日に、果房着生新梢と結果母枝の諸形質(新梢については、長さ、基部径、葉数、登熟率、最大葉および果房着生部位葉の大きさ、葉色、結果母枝上での発生位置。結果母枝については、長さ、基部径、芽数、発生新梢数)を調査した。同時に全果房を採取し、果実品質(果房重、果粒重、着粒数、果房軸の太さ・長さ・重さ、糖度、酸、着色程度)を調査した。

2. 結果および考察

1) 果房重との関係: 新梢との関係では、最大葉の縦長、葉色との間に正の相関がみられたが、有意ではなかった。他の形質とは相関がみられなかった。結果母枝との関係では、特に相関のある形質はみられなかった。

2) 果粒重との関係: 新梢、結果母枝とも果房重と同様の傾向であった。なお、果房重、果粒重と果房軸基部径、果房軸重との間には、有意な正の相関がみられ、果房軸が太く(第1図)、軸重が重い程、果房重、果粒重が大きかった。

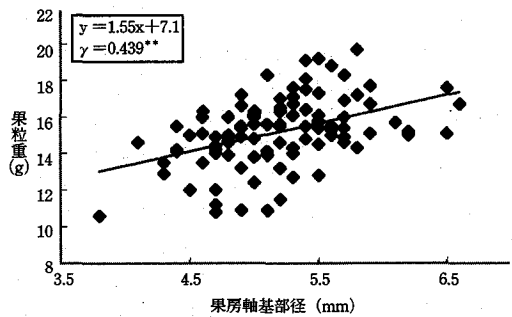
3) 着色程度との関係: 新梢との関係では、基部径が太く、最大葉が大きく、葉色が濃く(第2図)、登熟率が高い程、着色程度の高い果房が多かった。結果母枝との関係では、とくに相関のある形質はみられなかった。

4) 糖度との関係: 新梢との関係では、長さおよび基部径との間に有意な正の相関がみられ、新梢が長く(第3図)、太い程、糖度が高かった。結果母枝との関係では、とくに相関のある形質はみられなかった。

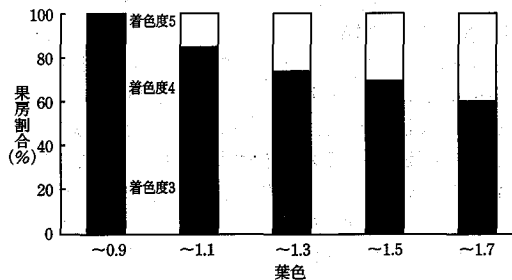
5) 酸との関係: 新梢、結果母枝とも、とくに相関のある形質はみられなかった。

以上の結果、今回の現地の加温栽培における調査では、果房重、果粒重は、新梢、結果母枝の形質と高い相関が

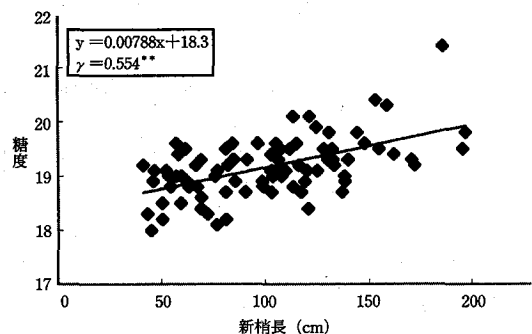
ないこと、着色程度、糖度は、新梢が強かつ充実している程良好であることが明らかとなった。果房重、果粒重については、果粒肥大期の夜温管理を20℃と高くしたため温度の影響がプラスに強くでたこと、調査園主の栽培技術が高く品質にばらつきが少なかったことが関連要因として考えられ、更に検討が必要である。



第1図 果房軸基部径と果粒重との相関



第2図 葉色と果房の着色程度



第3図 新梢長と糖度との相関